

活動報告

団体名	もやいハウス
活動名	熊本地震における生活環境改善支援ならびにネットワーク推進拠点運営活動
活動期間	2016年10月～2017年7月
活動の成果	<p>避難生活の環境改善および被災コミュニティ・組織のエンパワメントを目的に掲げ、大きく分けて①生活支援、②生活環境改善支援、③支援者のネットワーク作りを行った。</p> <p>①生活支援として物資配布や引っ越しのお手伝い、②生活環境改善支援として支援制度対象外の方や被災後も自分の敷地で時間を過ごすことを望む方等の気持ちに寄り添った活動を行った。西原村・益城町で、仮設のお風呂13件、台所2件、小屋2件、を作成した。「被災者からの卒業」を念頭に活動を行った為、生活環境改善に使用する木材を、地域の解体家屋から提供していただいた。これにより、支援を受けるだけでなく誰かの支援をする立場に立ち、支援の循環を作ることができた。そして、平成29年7月九州北部豪雨災害の被災地において、熊本県内で被災者からの卒業を果たし支援者として活動をする方が多数現れた。</p> <p>③支援者のネットワーク作りにあたり、社会福祉協議会の運営するボランティアセンターや地域に根付いて活動を行う支援団体の情報共有会議を実施し、連携を深めた。</p> <p>そして、地元はもちろん多くの方が継続して支援できるよう、活動拠点としての「もやいハウス」の運営を行った。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>この度、熊本地震被災地へのご支援、大変ありがとうございます。発災から1年半、被災された方は復旧を、生活の再建をと毎日踏ん張っていらっしゃる。地元愛の強い熊本で、どうか自分らしく生活再建をする方をお手伝いしたいと思ひ、支援活動を続けさせていただきました。各種支援を展開する中でお会いする被災された方、皆さん口々に「自分だけじゃどうにもならなかった」「おかげで助かったよ」「ありがとう」と、感謝の言葉をくれました。あの一つ一つのありがとうと一緒にいただいた笑顔を、私たちの活動を支えてくださった皆さまに直接お伝えできないのが残念です。</p> <p>月日が立ち、町中では更地や空き地が現れ、少しずつ生活の再建が進んでいます。仮設住宅を出ることができるようになったとの話もポツリポツリと聞こえてくるようになりました。しかし、色々な要素が織り交ざり、被災された方同士の中で時差がどんどん大きくなる側面もあると感じています。「もう1年、まだ1年」と地元の皆さんがおっしゃるように、復興への道程はこの先も長く続き、まだ沢山の支援が必要になるはず。これからも熊本地震への変わらぬ関心を、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>復旧期の支援としては一旦活動を終了しますが、これからも復興までの道程を歩く地元の方を応援していきたいと思ひます。</p>

(活動のようす)

